

大和町の

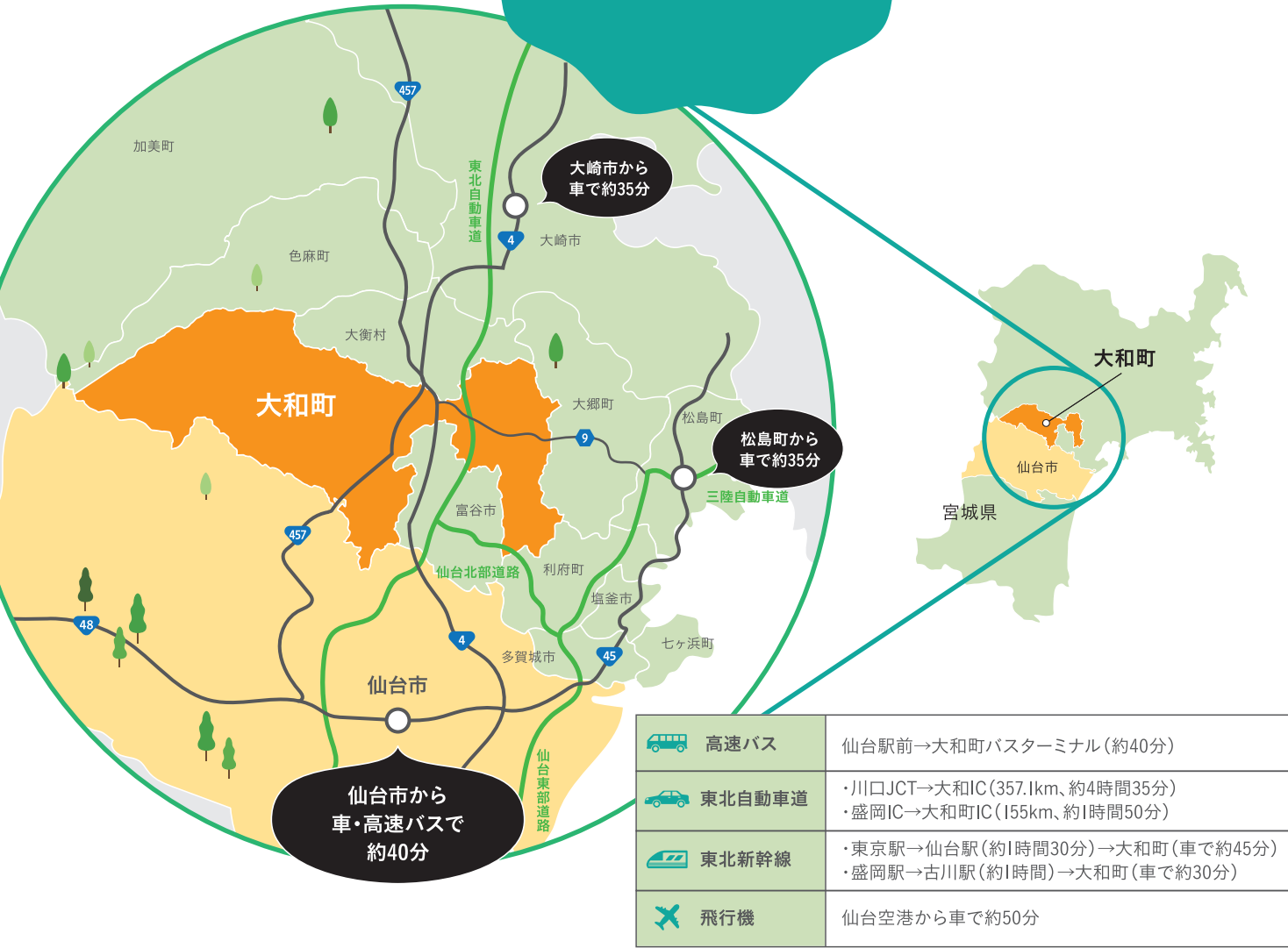
暮らし

大和町移住ガイド

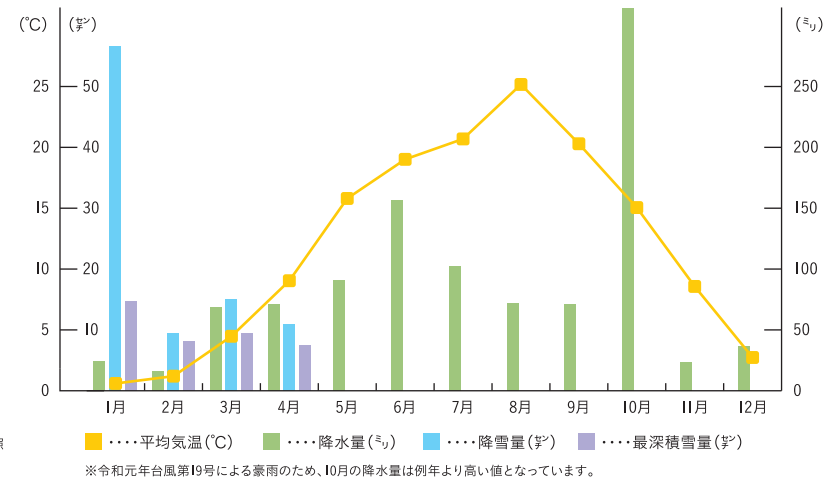
7つそろった、
ゆとりの暮らし



大和町までの アクセス



住みやすいまち大和町



※平均気温・平均降水量は2019年大和町、年間降雪量・最深積雪は2019年古川のデータより参照

大和町まちづくり政策課
 お問い合わせ 千981-3680 宮城県黒川郡大和町吉岡まほろば1丁目1-1
 TEL.022-345-1115
<https://www.town.taiwa.miyagi.jp/site/taiwaijyuu/>

移住に関する
情報



子育て支援制度
に関する情報



大和町 ツの魅力

7つの山が連なる大和町のシンボル「七ツ森」。

この町には、**育てる**・**遊ぶ・学ぶ**・**感じる・働く**・**つながる**・**暮らす**の
魅力も「ナナツ盛り」。家族で一緒に大和町。



立輪水辺公園



特産品の舞茸

P05 遊ぶ・学ぶ

大人も子どもも楽しめる大型公園や学習・体験施設が町内に多数あり、休日におでかけできる場所がたくさんあります。町内に計8校ある小・中学校では、それぞれで特色ある学校教育が行われており、「町は学校」を合言葉に、地域全体で子どもたちを育む活動も活発です。



公立宮城大学

P03 育てる

大和町は子育て中の家族にぴったりの町。子育て世帯には、町内の住宅を取得して移住する際に最大180万円の補助金が支給されます。さらに、18歳以下の子どもは医療費無料。賃貸の子育て支援住宅も提供しています。豊かな自然に触れながら、家族みんなでのびのびと日々の暮らしを楽しみましょう。

升沢自然遊歩道



P07 感じる・働く

大和町に暮らせば、いつでも豊かな自然を肌で感じることができます。町内にいながら登山やキャンプも楽しめるので、自由気ままなアウトドアライフを満喫できます。その一方で、町内には4つの工業団地があり働く場所も充実。近隣市町村にもすぐにアクセスでき、ビジネスの移動も楽々です。



ワイナリー



信楽寺跡



吉岡八幡神社

宮城の米どころ



大和町ってどんな町？
宮城県のほぼ中央に位置する自然豊かな町。最先端技術が集まる県内最大級の工業団地や、全国的にも珍しい学部を設置した公立宮城大学などもあります。町内には国道4号と東北自動車道が走り、隣接する仙台市内までは車・バスで約40分と、周辺市町村への移動も便利です。仙台市のほか、富谷市・利府町・大郷町・大衡村・色麻町に隣接しています。町内に連なる7つの山は総称「七ツ森」と呼ばれており、大和町の豊かな自然を表す町のシンボルとして多くの町民から愛されています。

P09 つながる

歴史と文化を大切にする大和町には、良縁に恵まれると言われる「島田飴まつり」や「まほろば夏まつり」「梵天ばやい」「お立ち酒全国大会」など、たくさんの伝統行事が残っています。こうしたイベントをととして、町民同士の仲が深まり、町外から訪れる人たちとの交流も生まれています。



島田飴まつり



桑沼の紅葉



台ヶ森彩釉陶器



4つの工業団地

P11 暮らす

家族と一緒に、この町で長く暮らしたい。そんな町民の思いを実現するために、大和町では町民のニーズを反映させた「重点プロジェクト」を推進しています。「もっと暮らしやすい、住みやすい町になったらいいな」を叶えるための取組みを紹介いたします。

P13 大和町の支援制度

ゆとりの暮らしを支える、町の移住支援制度や子育て支援制度をまとめました。



大和町5つのエリア

自然豊かなエリア

大和町の中心エリア

工業団地が集まる産業エリア

伊達家ゆかりの歴史が残るエリア

米作りが盛んな田園エリア

育てる



富谷市から移住

柄澤幹(からさわ みき)さん・
瑠子(ようこ)さんご家族

長男、成(じょう)くん、次男、快(かい)くんと4人家族。幹さんは富谷市内に勤務しています。

のびのびした子育てに憧れ、 自然豊かな宮床地区を選びました

大和町のシンボル・七ツ森に抱かれた宮床地区。樹々の緑、川のせせらぎなどの自然に恵まれ、伊達家ゆかりの史跡が多く残る、文化とロマンの薫りに包まれた地域です。

そんな宮床地区に移住したのが柄澤さん一家。移住を考え始めたきっかけはおさんの誕生にありました。「子どもが生まれ、それまで住んでいたIDKのアパートでは手狭になってきたと思い移住を考え始めました。検討にかかった期間は1年ほど。僕自身、田舎暮らしが好きなこともあり、自然豊かな宮床地区でののびのびした子

育てが憧れでした。宮床に実家がある妻の両親から『空いている畑地があるから、家を建てるなら使っていよ』と言われていたこともあって、宮床への移住を決めました」(幹さん)。

柄澤さん一家の移住を支えたのは『大和町子育て世帯等移住・定住応援事業補助金』。「家を新築する際に町の広報誌を見て補助金があることを知りました。『三世同居応援事業』とあわせて2種類の補助金を利用でき、本当に助かりましたね。役場の方々も親切で相談しやすかったです」(瑠子さん)。



宮床地区には、周囲に公園やアウトドア施設がそろう「南川ダム」があります。ダム湖を横断できる橋からの眺めは絶景です。



この制度を利用しました!

子育て世帯等移住・定住応援事業補助金

新たに住宅取得やリフォーム工事をした場合、以下の補助金を支給します。

町外から転入の場合 最大 **150万円**

町内から転居の場合 最大 **75万円**

詳しい制度の内容はコチラ!



三世同居応援事業補助金

三世で同居するための引越しやリフォーム工事を行った場合、以下の補助金を支給します。

三世同居応援事業補助金の場合 最大 **50万円**

子育て世帯等移住・定住応援事業補助金を併用する場合 最大 **30万円**

詳しい制度の内容はコチラ!



家庭菜園や川への散歩など ゆとりに満ちた暮らしを満喫



柄澤さん一家は現在、移住の際に新築した3LDKの自宅で生活。「アパートに住んでいた頃は子どもの大声が気になって仕方ありませんでしたが、今は周囲に気を遣わず子育てできています。外で遊ぶことも増えましたね」。幹さんの言葉どおり、自宅の庭に出た長男の成くんはキックバイクを颯爽と乗りこなし、弟の快くんは成くんの後を夢中で追いかけます。

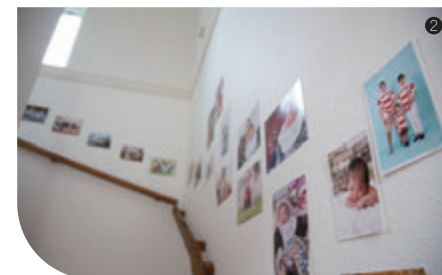
家庭菜園ではトマトやナス、冬瓜などを栽培。「食事のときにトマトを摘んでも

らったり、採れたてのナスを同じ敷地内にある実家へ届けてもらったり、子どもたちも楽しくお手伝いしてくれますよ」と瑠子さんは笑顔を浮かべます。

休みの日には、家族みんなで自宅周辺を散歩するのが日課。「近くの川には魚がいて、カワセミを見かけることもあります。草や虫のことも実際に触って教えられるので、自然の生き物や植物の豊かさを子どもたちに感じてもらえるのがうれしいです」(幹さん)。



1. 家庭菜園で育てたトマトを摘む成くん。2. 自宅の階段には子どもたちの写真がずらり。自然の中ですくすく成長してきた様子が伝わります。3. 自宅の裏手にある小川はいろんな生き物が息をする観察スポット。成くんお気に入りの場所です。



魚がいるよ!

地域に根差した暮らしを紡いでいきたい

宮床地区への移住と同時に、幹さんは同地区の青年部に所属。地域パトロール活動などに参加しています。「地域の活動を通して、田舎ならではの人の温かさや優しさを実感しています。大和町には移住してきた人がたくさんいるので、お互いに情報交換できるのも助かります」(幹さん)。

移住を推進している大和町役場では、宮床地区のほか、吉田、鶴巣、落合地区で「子育て支援住宅」を整備予

定。子育て世代に喜ばれる環境づくりを進めています。「これからも地域に根差した暮らしをしていきたいです。土の匂いのする生活の素晴らしさを子どもたちに伝えていきます」と幹さんは力強く語ります。

「自然いっぱい宮床地区は小さいお子さんがいるご家族にぴったりの場所。便利な都会では得られないものがたくさんありますよ。一緒に田舎暮らしを楽しみましょう」。

柄澤さん
おすすめスポット

立輪水辺公園

春には花見、夏にはBBQ、秋には芋煮会、冬には雪景色を満喫でき、一年を通して楽しめる大型公園。芋煮会用のかまどは25基常備されており、秋の芋煮会シーズンには多くの人で賑わいます。公園の隣には駐車場も完備されており、荷物を運ぶにも便利。家族・友人みんなで訪れたい公園です。



大和町で暮らす
私のゆとりポイント

子育てに
ぴったりな
自然の豊かさ



遊ぶ 学ぶ



仙台市宮城野区から移住

佐藤伸弥(さとうしんや)さん・
真有(まゆ)さんご家族

小学校1年生の桜花(きょうか)ちゃん、幼稚園年少の洵菜(じゅんな)ちゃんに果澄(かすみ)ちゃんとかわいい3姉妹がいる5人家族です。

少人数だからこそ認め合える

教育環境が魅力です

大和町名産の「鶴巣そば」や「行者菜」などの栽培が盛んな鶴巣地区に仙台市から移住してきたのが佐藤さん一家です。伸弥さんは仙台市内勤務、真有さんは2008年の北京オリンピックに出場するなど輝かしい実績を持ち、現在は小学生に陸上を教えています。



大和町は「学習のまちづくり」に力を入れています。家庭や地域と協働して、確かな学力と豊かな心を持つ子どもたちの育成を行っています。

「元々は仙台市内のアパートで暮らしていましたが、次女の誕生を機に、私の実家がある鶴巣への移住を決めました。娘たち一人ひとりに目が行き届く環境で生活したかったんです」と話す伸弥さん。その思いから新築した住まいは、全ての空間が繋がった間取りでどこからでも子どもたちの姿を確認できます。庭には手作りのプランコを置き、子どもたちが思う存分遊べるように工夫されています。

「大和町には、子ども一人ひとりを認めてくれる教育環境も整っています。長女が通っている小学校は1学年10～15人と少人数なので、子どもたち同士の関わり合いから自立が促されていますし、中学生になればスクールバスなど通学をサポートもありますし、田舎だからこそそのメリットは多いです」と佐藤さん夫妻は納得の表情を浮かべます。

この制度を利用しました！

第3子以降育児応援祝金制度

3人目以降のお子さまの誕生時と小・中学校入学時に、保護者の方にお祝金を支給します。

出生祝金 10万円

入学祝金 5万円
(うち、地元商品券25,000円)

詳しい制度の内容は
コチラ！



あんしん子育て医療費助成

子育て家庭を応援し、大和町の未来を担う子どものすこやかな育成のため、医療費の自己負担額を助成します。

0歳～18歳まで：入院・通院の保険診療にかかる
自己負担額ゼロ (所得制限無し)

詳しい制度の内容は
コチラ！



助け合える仲間がいるから安心

移住に際しては『子育て世帯等移住・定住応援事業補助金』と『三世同居応援事業補助金』を活用。「合計150万円ほどの補助金が下りました。引っ越し後すぐに三女が生まれて、10万円の出生祝金もいただいたので本当に助かりましたね」(真有さん)。鶴巣生まれの伸弥さんに対し、真有さんは知り合いがない場所での生活に不安もあったそうですが、「役場の職員の方々からお母さんたちとの交流の場を教えてください

い行ってみたら、すぐに仲良くなれました。仙台よりも人が少ない分、お母さん同士で声を掛け合うことが多いと思います。助け合える仲間がいてうれしいです」と笑顔。「地域のお祭りや運動会などいろんなイベントがあるので、子どもたちも私も楽しみにしているんです」(真有さん)。「町内にはレジャー施設もたくさんありますし、海も山も車で30分あれば行けるので遊びには困りませんよ」(伸弥さん)。

佐藤さん
おすすめスポット

八谷館跡

大和町落合地区にある室町時代後期の城館跡。現在は館跡の南部が公園(八谷館緑地)として整備され、地域住民の憩いの場として親しまれています。七ツ森の絶景が広がる最高のロケーションで、特に春のお花見シーズンには、満開の桜とのコラボレーションが楽しめます。



子どもたちには、 できる限りいろんな体験をさせたい

将来は自給自足に近い生活をしたという佐藤さん一家。「庭にある梅や栗の木の実を拾ったり、野菜を育てたり、薪ストーブに使う木を切ったり、子どもたちが一緒にできることは積極的にやらせています」という伸弥さんの言葉どおり、都市部では味わえない貴重な経験ができるのが大和町の魅力でもあります。

「18歳まで医療費無料を始め、子育てに関するさまざまな優遇制度があります。実際に生活してとても助かっているの、大和町の良さをたくさんの方に知ってもらいたいです」と真有さん。伸弥さんも「移住はハードルが高いかもしれませんが、空き家バンクなどを活用すれば金銭的な負担も軽減できます。子どもが小学校に入学する前が移住のチャンスですが、子育てを終えて、のんびり暮らしたい方にも最適な町ですよ」とアピールしています。



3人並んで
楽しい！

1.学校の宿題に取り組む長女の桜花ちゃん。伸弥さんに見守られながら、真剣な表情。2.自宅の階段下に設置されたカラフルなハンモック。大きな窓からの景色を眺められます。3.3姉妹並んで乗れるプランコは伸弥さんの手作り。みんな夢中になってこぎ続けます。

大和町で暮らす
私のゆとりポイント

子どもたち
一人ひとりを
大切にする
教育環境



感じる 働く



仙台市泉区より移住
今野智道(こんのともりのり)さん・
香菜子(かなこ)さんご家族
 ご夫妻、長男の寛大(かんた)くんとも自然を感じられるアウトドアが大好き。大和町から仙台市内の勤務先へ車で通う共働き世帯。2021年2月には第2子が誕生予定です。

子どもと一緒に自然を感じられることが何よりもうれしいです

山桜やソメイヨシノが咲き誇る桜里山公園があり、春には桜を愛でる人たちが賑わいを見せる小野地区。この地区には、仙台市泉区から移住してきた今野さん一家が暮らしています。「年齢的に家を建てようと思いついた頃に子どもの誕生が重なり、本格的に移住を考え始めました」。そう話す今野さん夫妻は2人とも仙台市内に勤めています。

移住の際に最も悩んだのが、「どこに建てるか」ということ。「仙台市内は地価が高く、建物に費用がかけられないために除外しました。その後、治安や子どもの教育、自分たちの通勤条件などを考え、私の実家がある大和町に決めました」(智道さん)。実家の田んぼ1枚分を農地から宅地に転用したため、自宅の周囲には美しい田園風景が広がります。「私も主人も田舎で育ったので、子どもには小さい頃から自然に触れさせたいと思っていました。ここに来てからは、木植えや収穫作業を手伝ったり、自宅の近くで川遊びや虫捕りをしたり、毎日自然を感じて生活できるので何よりもうれしいです」(香菜子さん)。

1. 蛇石せせらぎ公園には芝生エリアも。ボール遊びなどを楽しめます。2. おしゃれなインテリアで統一された今野さん宅。丁寧な暮らしが伺えます。3. 大和町には工業団地が4つ整備されており、雇用創出にも力を入れています。

今野さん
おすすめスポット

蛇石せせらぎ公園

南川ダムに隣接する「蛇石せせらぎ公園」には、じゃぶじゃぶ池やせせらぎ広場といった、子どもたちが水と触れ合える施設が充実。浅いせせらぎなので安心して遊ぶことができます。でかける際は、タオルや着替えの準備をお忘れなく!



1. 蛇石せせらぎ公園には芝生エリアも。ボール遊びなどを楽しめます。2. おしゃれなインテリアで統一された今野さん宅。丁寧な暮らしが伺えます。3. 大和町には工業団地が4つ整備されており、雇用創出にも力を入れています。

仕事とオフの切替えもスムーズに

町内のお気に入りの場所は、南川ダムに隣接する「蛇石せせらぎ公園」。今野さん夫妻は、「小さい子どもでも安全に水と触れ合える公園なので、夏になると何回も遊びに行きます。引っ込み思案だった息子の寛大も、今は裸足で川に飛び込んで1人で遊べるようになりました」とお子さんの成長を実感しています。香菜子さん自身も、「ここに住み始めてから土いじりをするようになったんです

が、不思議と気持ちがりフレッシュするんですよ。以前よりも仕事とプライベートの切替えがうまくできるようになったと思います」と心境の変化をうれしそうに語ります。通勤に関しても「地下鉄通勤から車通勤に変わり、仕事の行き帰りにそのまま保育園や買い物に寄れるようになったので、かえて便利になりました」(香菜子さん)と納得の表情を浮かべています。



この町で働くことになっても安心

時間をかけて、暮らしを充実させていきたい

大和町には、大規模な工業団地を中心に「働く場所」もたくさんそろっています。今野さん夫妻も、「近くに働く場所があるから、万一のときでも安心だよ」と頷きます。新型コロナウイルスの影響で全国的に田舎暮らしの良さが見直されている現在、「この近くに家を建てられる場所はありますか?」と自宅の前を通った人から訊ねられる機会も増えているそうです。移住の際は『子育て世帯等移住・定

住応援事業補助金』を利用。新居には薪ストーブが据えられているほか、今野さん夫妻のセンスが光るお部屋になっています。「これからは家のことに時間をかけて家族の暮らしを充実させたいです」(香菜子さん)、「この町は何もないと思われがちですが、生きる上で大切なものがたくさんあります。大和町で、ゆとりのある暮らしを楽しみましょう」(智道さん)。

大和町で暮らす私のゆとりポイント

自然と触れ合い
リフレッシュして、
仕事も遊びも充実!

この制度を利用しました!

子育て世帯等移住・定住応援事業補助金

新たに住宅取得やリフォーム工事等をした場合、以下の補助金を支給します。

町外から転入の場合 最大 **150万円**
 町内から転居の場合 最大 **75万円**

詳しい制度の内容はコチラ!

妊婦健診費用助成

妊婦さんや赤ちゃんの健康状態を確認する定期診査にかかる費用を助成します。

妊婦健康診査の助成券 **14回分**

詳しい制度の内容はコチラ!



船形山の麓を歩く「升沢自然遊歩道」には、ブナの原生林に囲まれた「すりばち沼」などの名所が点在。大和町の豊かな自然を味わえます。



町民 INTERVIEW

生粋の大和町人

千葉牧恵(ちば まきえ)さん

大和町内にある家業の葬儀屋に就きながら2009年頃に島田飴づくりをスタート。生来の器用さから、造形などもこなす同町屈指のマルチクリエイターです。



地域の活動を通じて、

いろんな人とつながれました

大和町吉岡地区にある吉岡八幡神社を中心に毎年12月14日に開催される「島田飴まつり」。花嫁の島田髷に似せた飴細工「島田飴」を手に入ると翌年、良縁に恵まれるという言い伝えが広がり、毎年、全国各地から多くの人が集まります。この祭りで販売される「島田飴」は地域の女性たちが一つひとつを手作り。そのリーダー的存在が千葉さんです。10代から40代の女性を中心とする約20名とともに飴づくりに励んでいます。

飴づくりは毎年11月にスタート。1ヶ月かけて1,000個ほどをつくっていきます。

男性陣が飴を仕込み、女性陣が成型から箱詰めまでを担当。千葉さんは、細かい作業が苦手な人でもきれいにしてくれるようにと髷の部分の木型を手作りして、他のメンバーのサポートも行っています。飴づくりには、富谷市や仙台市など、他市町村の人たちが参加することもあるほか、子ども向けの「飴づくり体験教室」も開催。千葉さんは「手にとってくれた方に喜んでいただけるのが何よりもうれしいですね」と、飴づくりのやりがいを語ります。

島田飴まつりとは

島田飴まつりは、大和町で400年続く縁結びのお祭りです。

ある年の12月14日、大和町吉岡八幡神社の神主が村を通りかかったところ、高島田に髪を結った美しい花嫁が現れ恋煩いとなりました。恋煩いを悪化させて病に伏した神主を救ったのは、村人がこしらえた島田の髪をした飴でした。神主は村の人々に感謝し、12月14日に縁結びの祭事を催すこととなったのです。

このお祭りでのみ手に入る島田飴は花嫁の島田髷に似せた飴細工。これを手に入ると翌年に良縁に恵まれると言われていました。また、お祭り当日は花嫁行列が吉岡の通りを練り歩き、華やかに大和町を盛り上げます。



仲間たちと飴づくりに励む千葉さん。初めて参加する人にも丁寧に作り方をレクチャーします。

ワクワク、ドキドキできる仲間の輪を広げていきたい!

島田飴のほか、お祭りの新たなマスコットアイテム「縁起花飾り」の製作も担当し、人形劇サークル「セツ森座」にも加入する千葉さん。「飴づくりへの参加をきっかけに町内外の人と交流する機会が増え、自然といろんな地域活動に参加するようになりました。子どもたちからも『あっ、飴づくりのおばちゃん

だ!』と言われることが増えました(笑)。お祭りやサークルの輪には移住してきた方もいますが、移住してきたかどうかは関係なく、みんなで和気あいあいと活動しています。

千葉さんは「この町には自然がたくさんあって、四季折々の風情に触れられます。仕事の移動中でも、外の眺めを見て

リフレッシュできますし、秋の夜は虫の声が聞こえてきてリラックスできます」と大和町の良さをアピール。「これからも『島田飴まつり』を通してワクワク、ドキドキできる仲間の輪を広げていきたいです!」と微笑みます。千葉さんたちがつくる島田飴はこれからも大和町から全国に良縁をもたらすことでしょう。

町内おでかけスポット

吉岡八幡神社

1618年に黒川郡の総鎮守社として現在地に建立。毎年12月14日の島田飴まつりの際には、良縁を求める人たちの参拝が絶えません。夏と秋には、本殿前に設けられた茅輪をくぐって無病息災を願う「夏越の輪くぐり」や流鏝馬などの伝統行事が開かれ、多くの町民に親しまれているパワースポットです。



1. 祭り当日は花嫁行列が商店街を練り歩き、吉岡八幡神社に島田飴を奉納します。2. 土台部分と髷の部分相接する作業は、最後の仕上げ。かなりの集中力が必要です。3. 千葉さんが製作している、お祭りの新たなマスコットアイテム「縁起花飾り」。4. 完成した島田飴。この飴と良縁を求めて、全国からたくさんの方が大和町を訪れます。5. 大切に保管されている、飴づくりの道具。右下の木型は千葉さんの手作りです。

大和町で暮らす私のゆとりポイント

一緒に地域を盛り上げる仲間がいる



暮らす



移住者も子育て中の家族も

安心して暮らせる町・大和町

宮城県のほぼ中央に位置する大和町。町内に仙台北部中核工業団地が誕生した昭和50年代以降、積極的な工業団地の整備と企業誘致活動を行ったことで人口が大きく増加しました。こうした背景からも町外からの転入者は毎年多く、住民たちは町に新しく移り住んできた人々との交流を積極的に行っています。

町内の保育施設や児童支援センター・児童館では、子育てをサポートするイベントや同年代の親子と知り合える集いのサービスを行っているため、子育て中の

家族も安心して暮らせる環境が整っています。また、住民同士のつながりが強い自然豊かなエリアと、買い物などの利便性が良い市街地エリアなど、自分たちの希望に合わせて移住先を選べることも特徴です。

そんな大和町では、町民のニーズを反映させた11の施策を「重点プロジェクト」に設定。「定住のまち」を目指し、さまざまな取り組みを行っています。その中から、大和町への移住を検討している方々に向けて3つのプロジェクトを紹介します。

3つのプロジェクト

もっと元気なまちへ!

企業立地・雇用拡大プロジェクト

宮城県における「ものづくり」の拠点としてのさらなる発展を目指し、新たな産業地の整備を推進。工業の振興・活性化を図り、町民が定住できる安定した雇用機会の拡大・確保を推進しています。

もっと安心なまちへ!

「未来を担う大和っ子」育成支援プロジェクト

確かな学力と豊かな心、健やかな体を持った児童・生徒の育成に注力。安心して子どもを産み育てられる環境・体制の充実を図るなど、中核都市づくりの未来を担う「大和っ子」の育成支援の強化を図ります。

もっと便利なまちへ!

公共交通サービス拡充プロジェクト

軌道系公共交通機関の整備を長期的に推進。当面は高速バス、路線バス及び町民バスの運行ルートや本数などを見直し、通勤・通学や買い物、通院などの移動ニーズに応える公共交通機関の充実を図ります。

企業立地・雇用拡大プロジェクト

将来にわたる定住を目指し、働く場所や就職機会を増設



第一仙台北部中核工業団地

空き家・空き店舗バンク

町のホームページ上に空き家や空き店舗の物件情報を掲載。「売りたい・貸したい」と考えている所有者と「買いたい・借りたい」という利用希望者との橋渡しをする事業です。

企業立地・奨励事業

新たな企業の進出を応援するため、『企業立地奨励金』『用地取得奨励金』『雇用促進奨励金』『用地取得助成金』などの企業誘致優遇制度を設け、積極的なPRを行っています。

店舗取得・改修推進事業

町内で新たに事業を始めたい町民を応援し、地域の商業を盛り上げるため、新しい店舗が必要な人や、現在持っている店舗の改修が必要な人に対して、費用の補助を行っています。

土曜学習「まほろば塾」

町内2校の中学3年生を対象に、英語・数学の習熟度別にクラス編制を行い、計20回の学習機会をつくっています。高校受験に向けた学力UPと志の向上を目指しています。

志まなび塾

町内の中学1年生が集い、町内外の歴史や文化、産業などを学びます。研修では、町の産業に関わっている愛知県のトヨタ自動車本社工場などを視察。より高い「志」を育みます。

病後児保育施設

保育を必要とする乳幼児や児童が病気の回復期にある際に、その子どもを保育所や病院に付設された専用スペースで一時的に預かるサービスです(2021年開設予定)。

「未来を担う大和っ子」育成支援プロジェクト

町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を応援



ALT授業風景

公共交通サービス拡充プロジェクト

町民バスやタクシーであらゆる人の移動をスムーズに



町民バス



デマンドタクシー

町民バス

【バスターミナル～宮床～もみじヶ丘～宮城大学】間に1日5.5往復の町民バス(定時定路線型)を運行し、町民の交通手段を確保しています。

デマンドタクシー

市街地・吉岡地区と周辺地域・宮床、吉田、鶴巣、落合地区との移動手段を確保するため、1日5往復の予約制乗り合いタクシー「デマンドタクシー」を運行中です。

高齢者・福祉タクシー

75歳以上の高齢者や65歳以上の自動車運転免許を自主返納した方、身体障害者手帳1級から3級(内部疾患)、療育手帳A、精神障害者保健福祉手帳1級から2級を持つ方に対して、タクシー運賃等の一部を助成しています。

移住支援制度

のびのび子育てしたいご家族を
応援する住宅支援が充実！

子育て世帯等移住・定住応援事業補助金

新たに宮床・吉田・鶴巣・落合地区に移住する子育て世帯が、住宅を購入・新築・リフォーム工事および土地を購入した際に補助金を交付しています。ご夫婦のいずれかが40歳未満の方または中学生以下のお子さんがいらっしゃるご家族が対象です。

最大150万円

住宅の取得・新築・建替えの場合

転入 100万円 転居 50万円

リフォーム工事のみ場合

転入 50万円 転居 25万円



子育て応援加算

空き家バンク加算

転入 20万円 転居 10万円 転入 10万円 転居 5万円

町内業者施工加算

転入 30万円 転居 15万円

大和町三世同居応援事業補助金

新たに町内で三世同居する世帯が、引越しやリフォーム工事をした際に補助金を交付しています。二世帯住宅だけでなく、同一の敷地内や隣接地に住まいを設けるご家族も対象となります。また、『子育て世帯等移住・定住応援事業補助金』と併せて申請することが可能です。

子育て世帯等移住・定住応援事業補助金と併せると

最大180万円

三世同居応援事業補助金のみ場合

転入 50万円 転居 25万円

子育て世帯等移住・定住応援事業補助金を併用する場合

転入 30万円 転居 15万円

子育て支援住宅整備事業

吉田・鶴巣・落合・宮床地区において、小学生以下のお子さんが中学校を卒業するまで暮らせる賃貸住宅を整備しています。住宅の整備状況や入居者募集の情報は、大和町のホームページ上でご覧いただけます。

【入居者への支援】

入居時の引越し費用等を支援

転入 20万円 転居 15万円

お子さんの人数に応じた奨励金を毎月交付

小学生1人につき 5,000円/月

中学生1人につき 2,500円/月

※上限 1万円/月



空き家住宅購入支援事業補助金

町内への定住をお考えの子育て世帯が、建築後 20 年を経過した空き家を購入・建替え・リフォーム工事および空き家の土地を購入した際に補助金を交付しています。『三世同居応援事業補助金』と併せて交付を受けることができます。

転入 25万円 転居 15万円



子育て応援加算

空き家バンク加算

町内業者施工加算

転入・転居 10万円 転入・転居 10万円 転入・転居 10万円

詳しい各制度の内容は
大和町のホームページをチェック！



ご家族と一緒に子育てする町を
目指しています！

子育て支援制度

18歳まで
医療費無料！
所得制限なし！

3人目以降の
お子さんには
祝い金あり！

学校と地域の協働による
独自の
教育支援が
充実！

大和町の子育て支援策

妊娠時

- 妊婦健診受診にかかる費用14回分助成(一部自己負担あり)
- 保健師・助産師・栄養士による妊婦健康相談
- マタニティセミナーの開催
- 母子手帳アプリ「大和町もりすくナビ」の配信
- 不妊に悩む方への特定治療支援1回の治療につき最大15万円を助成 *年齢や回数などの条件あり。

出産時

- 体重2,000g以下で生まれた未熟児の医療費助成
- 出産祝い品の贈呈(お子さま1人につき絵本セット1セットをプレゼント)
- 第3子以降育児応援祝い金制度

0～6歳 乳・幼児期

- 赤ちゃんの家庭訪問「大きくなあれ訪問」(生後4ヶ月までのお子さん全員対象)
- 保健師・助産師・栄養士等による電話相談・家庭訪問(新生児訪問など)
- 子育てすこやか相談(育児相談・発達相談・産前産後相談・栄養相談・歯科相談)
- 乳幼児健康診査、予防接種費用助成
- 生まれてから18歳まで入院・通院にかかる医療費無料「あんしん子育て医療費助成」
- 母子・父子家庭で18歳以下のお子さんを養育する方の医療費助成
- 乳幼児親子を対象にした幼児クラブの実施
- 幼児学級「どんぐりクラブ」の開催
- チャイルドシートの無料貸し出し *貸出期間は最長1年間
- 幼児教育・保育の無償化

7～12歳 小学生

- 就学時健康診断
- 農作業体験や島田鮎まつりへの参加など独自の教育課程
- 大和町放課後子ども教室「わいわい」
- 小学5・6年生を対象にしたリーダー育成プログラム「大和っ子未来塾」
- 医療費無料
- 第3子以降育児応援祝い金制度
- 子どもインフルエンザワクチン接種費用助成(上限金額1,500円/回、1人2回まで)

13～15歳 中学生

- 中学1年生を対象にした研修事業「志まなび塾」
- 中学3年生を対象にした土曜学習「まほろば塾」
- 医療費無料
- 第3子以降育児応援祝い金制度
- 子どもインフルエンザワクチン接種費用助成(上限金額1,500円/回、1人1回まで)

16～18歳 高校生

- 高校への通学費用助成(上限金額10,000円/月)
- 無利子の奨学資金制度あり(大学生・短期大学生・専門学生を対象にした制度もあり)
- 医療費無料

子育てするなら
大和町へ！

